

この夏、志学の講習で自分を変える！

志学の夏期講習案内

7/21(木)～8/9(火)

小5～中2

7/21～8/1 まで(補習期間 8/2～8/4 まで)

中3

7/21～8/6 まで(補習期間 8/8～8/9 まで)

高1・2

7/21～8/1 まで(補習期間 8/2～8/4 まで)

高3

7/21～8/6 まで(補習期間 8/8～8/9 まで)

注) 志学ゼミの講習は予定が終わらないと終わりません

日時の延長は覚悟して臨んで下さい

高3・中3だけが受験生ではない。

受験を意識した瞬間から受験生になるのだ。

さあ、自分を変える飛躍の夏が来た！ 決めたことをやりきる、ひたすらやりきる！

<塾長からのメッセージ>

夢に向かって、志を立て、Prideを持って挑む

なんのために勉強をするのか？それは君たちがそれぞれにもっている夢の実現のためだ。そのために志を立て、自分に誇り (Pride) を持って挑むのだ。そうだ。自分はできるのだ。「自分だから出来るのだ」その意気込みが大切なのだ。



「こうしたい、ああしたい、こうなりたい」人間誰しも思うことです。それを「そう
したかった、なりたかった」で終わるか。それともその目標に向かってやるかは自分次第です。

そうです。やると決めたら、いつまでに何をするのかを決めて実行するしかありま

せん。人間は弱いものですから一人では難しいことが多いのです。誰しも決

めたことをやれなかった経験を持っています。しかし誰かがサポートしてくれたり、ライバルが歯を食いしばってやっている姿を見ると自分もとなるのです。そうして一步一步目標に向けて、今日はここまでできたと、できたことを確認して1日を終えるのです。そうして目標が見えてくるのです。物事を達成した時に初めてわかることがあるのです。達成した喜びとともに「**やればできる**」と思えるのです。ですから**自信は自分でつけるしかない**のです。他人はつけてはくれないのです。この夏、私たち講師も数か月かけて用意してまいりました。そして是非とも共に汗を流し、「やればできる」という達成感を味わってください。そのためには「**くりかえし**」「**できるまで**」「**わかるまで**」、ひたすら問題に挑み続けてください。私たちはできるまで付き合います。そして」その後にはきっと何かが見えてきます。

自分是可以る！

<保護者様へ>

お子様が頑張っている姿を見るのはいいものです。「**頑張れ**」から「**よくやってるね**」

と言う言葉に変えたいですね。そこには子供自身が前向きに物事に立ち向かっている時に感じる充実感、何かをやり遂げたという達成感が見えたときです。そのために保護者様が出来ること、それは**やっていることを認めて褒める**ことです。「よくやってるね、すごいね」と声をかけてあげる。そうすると子供は元気をもらった分、またやろうとします。

親は誰しも子供にこうなってほしいと思うものです。そしてこうしてほしいという思いが「こうすれば」に変わり、「こうしなさい」になっていきます。そんなときこそ**ハードルを下げて既に出来ていることを探してみてください**。例えば掃除をしない子が多少机の上を片付けたとします。例えば部屋の片付けを例に挙げましょう。前はやっとなし少し片付けたのかと思ったでしょうがハードルを下げると片付けをしない子がしたわけですから「よく片付けたわね」になるのです。無理の意褒める必要はありませんがやったことを認めることが大切になります。そしてI(英語で私は)の褒め。「片付けてくれてお母さんは(Iとは私)嬉しいわ」と加えてあげると相手の心に響きます。

そのためには「くりかえし」「できるまで」「わかるまで」本人が納得する(教える方も納得する)までやるしかありません。決めたことを決めた日までにやる。できなければ出来るまでやる。この夏、やりきったものを持つことで切った何かが変わってきます。**自信は子供自身が自分でつけるしかありません**。自信を持ったら顔が変わってきます。自信は表情に出るからです。そうしてまた一つたくましくなっていく姿をお見せできるように私たちも全力でサポートしてまいります。お子様、保護者様、そして私共の二人三脚でこの夏、一回り大きく成長されるお子様の姿を見られえるようにしてまいります。

子供が弱気になることもあります。私も子供のころ、母から「あなたはお父さんの子だからやればできる」といわれどんなに心強く思ったかわかりません。根拠は無くとも子供には響く言葉です。私はこの言葉でどん底の成績から大学入試を突破できました。ですから、**「あなたはやればできる。大丈夫」**と励ましていきましょう。太陽に向かって咲くひまわりのように目標に向かって成長するお子様に太陽の光を投げかけていきましょう。

お一人で悩まないでください。教育相談は随時お受けいたしております。(塾生は無料、塾外生は有料とさせていただきます)

「できる」「できる」を口癖に！

本気で取り組むかた限定！

夏期講習に入る前にすること！

夏期講習はスタートの前で決まる！

敵を知り己を知れば百戦危うからず（孫子の兵法）

（敵、味方についても情勢をしっかりと把握していれば幾度戦っても敗れることはない）

そのためには

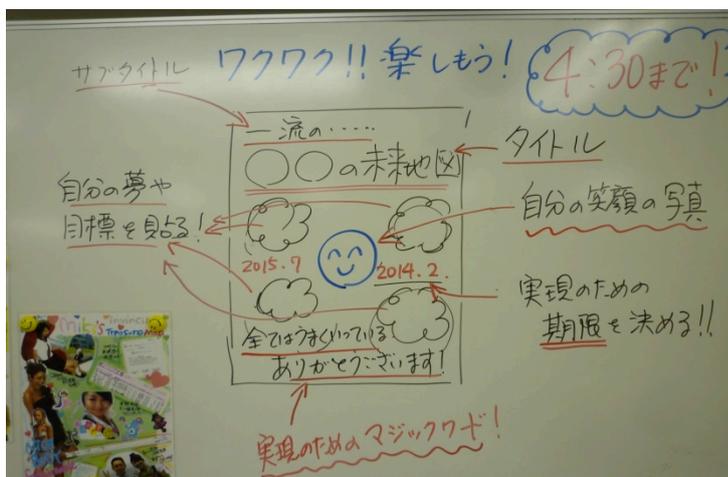
- ①講習に入る前に自分の弱点を分析し、何が不足しているかを知る必要がある、またその期間が必要となる。
- ②弱点を客観的に見てもらう人が必要である。
- ③その学習方法を知る必要がある。
- ④「いつまでに」「何をするのか」を決めて習慣化する。
- ⑤講習で何ができるようになるのかの目標の明確化をする。
- ⑥そのために講習までに何をできるようにするのかを決める。
- ⑦講習中までにやり遂げることを確認する。

志学ゼミではそのために講習前を無料体験としているのです。

7月1日から7月19日まで無料体験実施中！



勉強はなんのためにするのか？



そのために7月17日[未来地図]をつくる!

志学ゼミは(社)スクールコーチ

ング協会の本部としてコーチングを取り入れています。
専属トレーナーの河合先生をお招きして自分の未来図を作っていきます。自分がなりたいこと、やりたいことを写真等でビジュアル化してB4サイズで作ります。中心には自分の写真を貼り、達成出来ていることを前提にして潜在意識に入れていきます。私も毎年生徒と共に作ります。自分はこうなりたい、でもできるだろうかと不安に思うのは当たり前です。本当になりたい、やりたいことを自分に向き合う時間を設けています。実は専属トレーナーの河合先生は工業高校時代に英数は赤点どころか0点をとったことがあるそうです。卒業後、歯科技工師として働かれていました。しかし、病気を嫌い入院。入院中に先生方が英語のカルテを読まれていることを思い出され、英語ができるようになりたいと思い立ち大学受験を決意。予備校の模試を受けました。偏差値28 何度かあきらめかけた時、1冊の本に「私は失敗したことが無い」と書かれていました。彼はフィラメントの材料探しに明け暮れていました。そんな主人公は「材料が合わなかったことを発見した」と普通なら失敗にあたることを新たな発見のようにとらえたのです。

その主人公はエジソン。河合先生はこの時、プラス思考で目標を書いて貼ろうと思い立ったとのことです。未来地図の先駆者ですね。

そして決めたことがあったそうです。毎日必ず朝、「英語の放送で起きる」つまり目覚まし代わりにセットされたのです。半年が過ぎ、偏差値が36になりましたが進路面談では行けるところがないと言われたそうです。「君どこに行きたいの」と再び聞かれたところ「慶應です」と答えたそうです。知っている大学の名前を考えたところとっさに出てきたそうですが。この時、慶應を意識し始めたと言いますからすごい話です。

ある朝、ラジオから日本語が流れてきたのです。ああ、セットを間違えたんだなあと羅字を聞き直すと英語だったそうです。なんと英語が日本語で聞こえていたらしいのです。そして翌月模試を受けた河合先生。なんと偏差が72. そして慶応大学に合格したのです。ビリギャルをはるかにしのぐ体験がそこにありました。そんな体験を持つ彼だからこそ話せる話があります。そして一緒に未来の自分を作っていきますか？私も作ります。そして実現させてきました。今年も作ります。



合格者にはそれぞれのストーリーがある

それは不合格から始まった。太鼓判を押されていた都立高校に落ちた。悔しさを持って入学した高校生活。しかし部活にのめり込んで塾も1年の夏までは塾に行けた。しかし3年の4月に引退するまで受験勉強はできなかった。

「部活にのめり込むと受験は出来なくなる」という鉄人の言葉は本当です。



津田塾大学（国際関係学部）

合格 吉川 美佳さん 村田女子高校卒

私が属した演劇部は全国大会に出場するほどの強豪校でした。そして2年では部長になった私は、一年の時にと大会を逃した悔しさから部活に明け暮れました。「高校で部活には入ると勉強との両立が大変だ」という鉄人の言葉は頭をよぎることはありませんが、部活の忙しさにかまけてその言葉から逃げていました。その年部活は関東大会に進み、引退したのは3年生の4月。そこから毎日塾に通い、夏にはセンターレベルの模試で8割が見えてきました。しかし古文、漢文、何よりも日本史の遅れが響いて焦りを生みました。定期テストのために詰め込んだ日本史では太刀打ちできません。焦るから覚えられない。悪循環でした。古文、漢文も一から教えてもらう状態でした。それはただただ**自分の計画性の無さ**が生んだ結果でした。

そしてセンターでは滑り止めは押さえたものの一般入試では全滅。第一志望の津田塾は補欠でした。待てども、待てども繰り上げの連絡は来ずに浪人が3月末に決まりました。

あと一步のところまで不合格となった私に、父は「あの状況からよくやった。あともう一步だったな」と行ってくれた父に申し訳ない気持ちがこみ上げてきました。

浪人して社会的に自分がどこにも属していないことを痛感しました。そして再度、個人計画を塾で向井先生と練って進みました。「計画性」の有無が合否を左右します。浪人の受験は現役のときと比べて相当なプレッシャーが掛かりました。新聞のコラムや国連で働く方の記事を読みながらそういった場所で働きたいと考えるようになりました。そうして大学で学ぶ意義について考えられるようになりました。そこでどこの大学へ行っても後悔をしないように何度も志学の先生と面談を繰り返しました。

それでも大学入試は簡単なものではありません。今年もなかなか合格が出ず、最後に津田塾が残りました。後がないというプレッシャーが強くありました。しかしここまで応援してくれた両親の為にも、自分の為にも受かりたかった。何とか合格を手に出れたことは幸いでした。私よりも両親が喜んでくれたのが今でも鮮明に残っています。

先日祝賀会で塾長から相田みつをさんのカードをいただきました。「今の自分に合ったカードを引くよ」と言われました。自分が選んだカードには「自分が自分にならないでだれが自分になる」と書かれてありました。「自分の魅力とは、自分なりの価値観を持つこと」が今後の私の課題なのだ」と気がつきました。これまでのご縁を無駄にせず、そしてこれからのご縁を大切にしたいと思っています。受験は人生の通過点ですから。

これまで私を支えてくれた両親、塾長をはじめとする志学の先生方に感謝します。

やり切るから自信につながる 自信が付くと自らペンを持つ

こんなにもやったと言える自分を作る



そのためには

くりかえし 言えるまで。書けるまで。自分で解けるまで何度でもやる。

できるまで 志学の講習は予定が終わるまでは終了しません。

わかるまで 自分で解き直す。わかったと言えるまでやり込む。